

LED酵母 次々商品化

ロゴ活用 PRが容易に

県内酒造8社が23銘柄

徳島県内の酒造会社が、紫外線LEDを照射して育種した酵母を使った日本酒を相次いで商品化している。育種を手掛けた県立工業技術センターが1月に「LED夢酵母」と名付けたことから、ロゴマークのシールを作った瓶に貼るなどPRしやすくなったのが要因。フルーティーで飲みやすい味も好評で、ブランド化への期待が高まっている。

工技センターによるに使いやすくなり、商品名の決定から品化の増加につながった。3カ月たった4月時点

で、8社が23銘柄を販売。酒造会社に新酵母の提供を始めた2014酒造年度（14年7月1日～15年6月30日）の6社9銘柄から大幅に伸びた。

工技センターは名称決定後、ロゴマークのデータを県酒造組合に提供。組合はこれを活用して瓶に貼るシールを1万枚作り、希望する酒造会社に配っている。LEDをPR材料



「LED夢酵母」のシールを貼り、売り出された日本酒—徳島市の小売店

内外の小売店へ出荷している。甘さと酸味を併せ持ち、従来の酵母にない特徴的な味に仕上がった。「女性やビギナーとともに、日本酒通にも受け入れられる」と、酒質に自信を持つ。

工技センターの福田和弘副所長は「名称のインパクトで消費者への訴求力が高まった。この酵母による醸造が定着し、ブランド化できれば」としている。

工技センターは日本酒の消費拡大に向け、徳島で生産が盛んなLEDによる酵母を育種し、14年12月に特許出願した。名称とロゴマークは商標登録を申請している。（久保高茂）

三芳菊酒造（三好市）は8銘柄を販売。県産の酒米と「LED夢酵母」を併せて使うことで、地域性を打ち出している。主に首都圏の小売店に、一升瓶換算で約5千本を出荷。「名前の効果もあって期待通りの売れ行きだ」としている。

本家松浦酒造場（鳴門市）は4月から、ロゴマークを貼った「鳴門鯛 純米吟醸」を県